

事後評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成26年6月16日(月)

研究課題	果実の収穫適期の把握と専用カラーチャートの開発	
研究期間	平成23年度～25年度	
	評価項目	平均点
	1 研究課題選定の妥当性	4.2
	2 目標の達成度	4.2
	3 研究成果の活用及び実用化の可能性	4.0
	4 今後の発展性	4.2
	5 総合評点	4.2
<p>本研究は、ブドウの主要品種「ゴルビー」および「シャイン・マスカット」とスモモの本県主要品種「サマーエンジェル」、「サマービューティー」についてカラーチャートによる客観的な基準で収穫適期を判定することで果実品質の均一化を目標としたものである。</p> <p>1) ブドウのカラーチャート 赤系と緑系の各1品種について熟期のステージと果皮の色のデータをもとにカラーチャートを作成しており、果実の糖度との相関も認められている。また、緑系品種「シャイン・マスカット」用カラーチャートについては生産者や品種育成者の農研機構・果樹研究所から高い評価を得ている。</p> <p>2) スモモのカラーチャート 県オリジナルの2品種について熟期のステージと果皮の色から5段階のカラーチャートを作成しており、果実の追熟との相関も認められている。今後は硬さだけでなく糖度との相関の確認も必要であろう。</p> <p>3) 携帯端末(スマホ)を利用したカラーチャート機 収穫適期を機械的に判定するカラーチャート機の原型はできているが完成までには至っていない。判定の精度が低いのは光線の強弱や陰影による攪乱が影響していると考えられる。また、ほ場で判定する場合、その日の天気や時刻など採光条件による影響も大きいと思われるのでそれらに対応した補正が必要であろう。カラーチャートによる判定は、最終的には機器による処理ができて完成というべきであり、今後の進展が期待される。</p>		